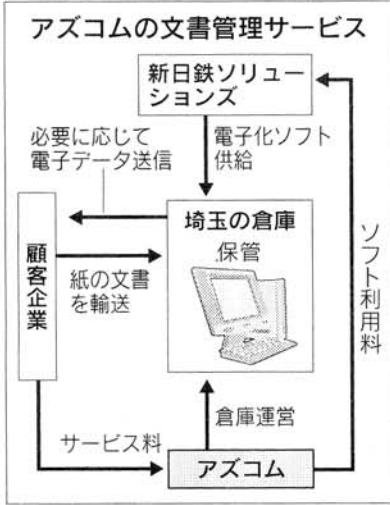


文書管理システム



リース会社に拡販

アズコム、倉庫保管と一体

システム開発のアズコムデータセキュリティ(埼玉県吉川市、斎藤健吾社長)は、新日鉄グループと開発した文書管理システムをリース会社に拡販する。文書の倉庫保管と電子化を組み合わせた効率性を、会計基準変更で文書管理の負担が増すリース会社にアピールする。専門の営業部隊を設け従来の不動産などから納入先を広げ、二〇一〇年度の売上高を直近の二倍の十億円に高める。

アズコムが新日鉄ソリューションズ(東京・中央)と提供するサービスは、膨大な業務文書を一度に電子化するのは難しいが、社内に保管するスペースもなく管理に困っている企業向け。日産自動車系の日産フィナンシャルサービス(千葉市)への納入が決まり、この

が該当する資料を取り出して電子データ化しインターネット経由で渡す。閲覧の連絡から文書のデータを受け取るまでの時間は二十分から二時間程度。顧客企業の手元には電子化されたデータが残らず、業務スペースの効率化に役立つ。

サービスの利用料はソフトと倉庫の費用を含め月二十万円から。紙資料の電子化作業には一件四百円程度の費用が別にかかるが、必要のない文書まで一度にすべて電子化するよりも費用を節約できるといふ。

四月の会計基準変更で、リース資産を貸借対照表の簿外で処理することができなくなり、リース会社は顧客企業や自社の資産に関する膨大な量の書類作成を迫られている。一時的に大量発生する重要書類を手軽に保管・閲覧できる利点を訴えていく。